

成果の説明書

(氏名) 吉武信彦	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>以下の研究活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">・共同執筆、「デンマークとEU—デンマークらしさのディレンマ (2000 年代初頭まで)」、「国際関係の中のデンマーク—2000 年代以降の新展開」、村井誠人編『デンマークを知るための70章 (第2版)』明石書店、2024年1月、175～179、180～183頁。・単著、エッセー、「<世界の街角から>デンマークから コペンハーゲンに「山」をつくった話」『改革者』(政策研究フォーラム) 第758号、2023年9月、51頁。・単著、エッセー、「スウェーデンの新型コロナ対応をいかに評価するか」『季刊 自治レポート』(富士社会教育センター) 第83号、2024年2月15日、12～13頁。・報告、「北欧情勢—デンマーク、スウェーデン、フィンランド」、2023年度第3回改革・政策研究会 (政策研究フォーラム)、東京、2023年8月7日。・討論、「共通論題 北欧研究と北極研究の対話—A r C S I I 国際政治課題」(大西富士夫「北極域研究の過去から現在への歩み—北ヨーロッパ研究との対話に向けて」、ユハ・サウナワラ「インフラ開発の観点から見た北極研究と北極域圏研究の対話」、高橋美野梨「コンタクトゾーンとしてのグリーンランド」)、北ヨーロッパ学会 2023年度研究大会、北海学園大学豊平キャンパス、対面・オンラインハイブリッド開催、2023年11月4日。	
<p>2 その他の事項</p> <p>特になし。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>コロナ禍開始以来、中止していた北欧諸国での現地調査を再開した。そのため、情報のインプットが多くなり、アウトプットが追いつかなかった。次年度は、海外での調査を継続しつつ、研究のアウトプットを重視したい。また、教育においても引き続き安全かつ効果的な対面講義を工夫したい。</p>	